

平成25年12月20日



クリスマス・お正月と、イベントが盛りだくさんの季節になりました。そしていよいよ、冬休みになりました。学校がお休みの期間は生活リズムが崩れ、体調を崩しやすいです。夜更かしをせずに、体調管理を行い、元気に冬休みを過ごしましょう。

12月1日は世界エイズデーでした。これはエイズの拡大防止と患者や感染者に対する差別・偏見の解消を目的にWHOが制定したものです。最近のHIVやエイズの状況について知っておきましょう。

レッドリボンは偏見や差別をしないというメッセージ

“レッドリボン”は、ヨーロッパに古くから伝えられる風習のひとつで、病気や事故で人生を途中で絶たれてしまった人々への追悼の気持ちを表すものでした。1980年代の終わりごろ、演劇や音楽などで活動するアーティスト達にもエイズが広がり、エイズに倒れて死亡する人が増えていきました。そうした仲間達に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すため、“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。



“レッドリボン”はあなたがエイズに関して偏見を持っていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。

日本でのニュース

今年も12月1日に向けて政府や様々な団体が“レッドリボンキャンペーン”を行っていました。そんな中、とてもショッキングなニュースが日本で報道されました。HIVに感染した人が献血を行い、その血液が2人の人に輸血されるという出来事が報道されたのです。輸血されたうちの1人の方は輸血をきっかけに、HIVに感染してしまいました。

輸血をした人は、おそらく自分がHIVに感染しているのか調べたくて献血をしたのではないかとされています。しかし、献血された血液が安全なものであるかどうか、HIVの検査はしますが、HIVに感染してから4週間ほどは、検査をしてもHIVに感染しているかどうかは分かりません。そのため、今回のケースでは血液がHIV検査をパスし、患者さんに輸血されてしまいました。また、もし、HIVに感染していたとしても、献血をした人に、HIVに感染していたかどうかの結果は通知されません。日本ではHIV検査は保健所で無料で実施しています。このような事が再び起こらないよう、正確な知識を持ち、自分でしっかり考えて行動することが重要です。

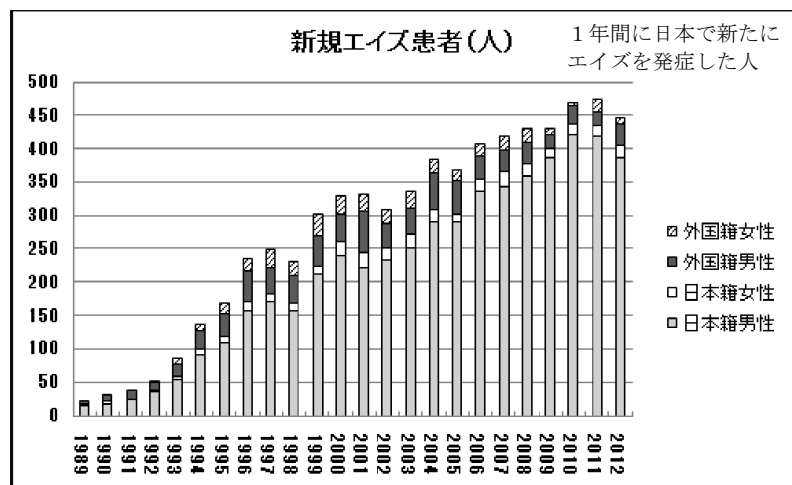
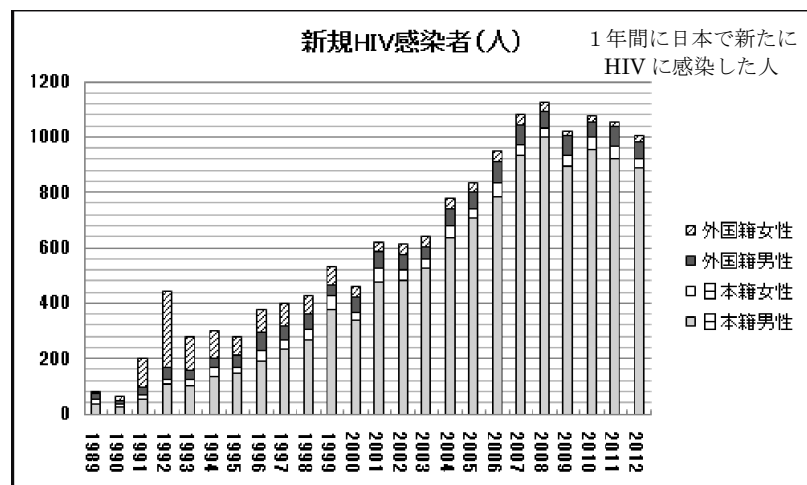


献血をHIV検査の代わりとしてはいけません

世界と日本の状況

現在の医療では、エイズを治す方法はありません。しかし、薬の開発が進み、エイズの発症を遅らせることができるようになり、HIVに感染した人の寿命は延びてきています。HIVは性行為などで人から人へ広がり続けています。世界では1年間で新たにHIVに感染する人は減少してきていますが、HIV感染者全体の人数は緩やかに増加しています。

また、日本でも1年間で約1000人の人が新たにHIVに感染しています。HIV感染者は増え続けており、特に同性間の性的接触による男性の感染者が多くなっています。先進国の中でHIV感染者が増加しているのは日本だけです。



「性」についての疑問はありませんか？

先進国の中で日本だけがHIV感染者が増えている事から分かるように、諸外国と比べると日本では性教育が進んでいません。日本では昔からの習慣で、「性」に関する話を人前ですることを、“はしたない”、“みっともない”と考える傾向があります。また、“スマートフォン”、“教室のクーラー”、“情報の授業”など、昔はなかったものが今は当たり前のようにあるのと同じように、10代の皆さんが当然のように考えている“男女の付き合い方”も大人から見ると、「昔とは違う」ように見えています。そのため、日常生活の中では、現状に合った情報が伝わりにくい現状があります。しかし、その時代の流れの中で生きているのはまぎれもないみなさん自身です。「教わっていない」、「知らなかった」では済まない結果が待っているかもしれません。分からない事や疑問に思った事は信用できる情報を得て、きちんと自分の知識にしておきましょう。そのようにして、自分の「性」と向き合う事は、自分の周りのかけがえのない人を大切にする事につながっていくはずですよ。